



# オックスフォード大学 ボードリアン図書館 加藤 芳子

夏休みともなれば、ボードリアン図書館では、しんと静まり返ったあのオックスフォード独特の爽やかな空気の中、大きめの机でゆったりと本を読む人達の姿が見られる。彼らは、オックスフォード大学関係者とは限らない。世界中の学者及びその予備軍なのだ。机や椅子は木製、くずかごは籐製、古い図書目録はカード式ではなく、カードを糊付けした紙を製本しただけという世界である。

オックスフォード大学は、イタリアのボローニャ大学、パドヴァ大学、フランスのパリ大学等に並び、西欧最古の大学で、5世紀頃カソリック修道院の学寮（ホール）に始まる。



1214年にローマ教皇が大学の設立勅許状を与えた事により、最初の学寮（コレッジ）としてペイリオール・コレッジ、ユニバーシティ・コレッジ（詩人シェリーが学ぶ）、マートン・コレッジ（皇太子殿下が留学された）等ができた。同大学の図書館自体は、1320年にウースター司教トーマス・コッパムが創設して以来（これは、コッパム図書館と呼ばれた）、15世紀初頭には国王ヘンリー4世等、15世紀半ばには、グロースター公爵ハンフリー等の援助を得て発展し、やがてトーマス・ボードリー卿等の寄贈もあり、1602年にその名をとってボードリアン図書館として正式に開館された。グロースター公ハンフリーの名は、ハンフリー公図書室の名称に残され、今は貴重本等の展示室となっている。数年前ここで筆者はヒゲの殿下と、ご学友がここを視察されているのに遭遇したことがある。

オックスフォード大学の図書館には、この中央図書館たるボードリアン図書館の他に、45の研究等所の付属図書館があり、この他に40位のいわゆる学寮等が、それぞれ図書館を持っているのである。規模では、ロンドンの大英図書館（そろそろ移転される）が英国最大ではある。しかし、ロンドンの書籍出版業組合は、大英図書館ができる150年も前の1610年以降ずっと、このボードリアン図書館に新刊本を献呈してきているのである。

ボードリアン図書館は、旧館、新館及びラドリフ・カメラなる3つの図書館より成り、各々は地下のトンネルで結ばれ、ベルト・コンベアーが次々と本を運んでいる。

この他に、多数の研究所及び学寮に属する図書館があり、それらがオックスフォードの市内に散在している訳であるから、読みたい本を手にするまでに数日かかるのも珍しいことではない。市内の別の図書館でしか借りられず、また特別なコーナーでしか読めない本もあり、何でも中央図書館にいて読める訳ではないのである。

それでも今日も、図書館を利用する研究者の姿は絶えない。

（教養部教授）

## 標題・表紙のこと

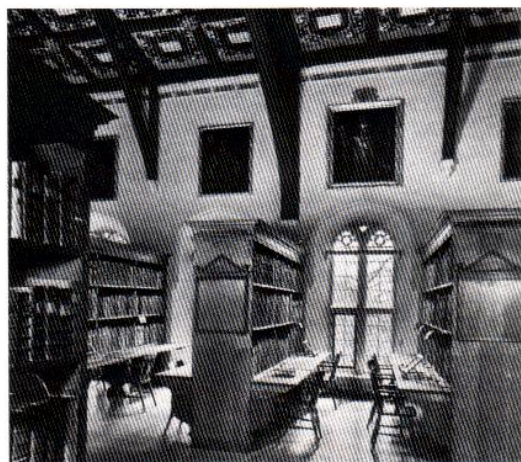


標題の「ホルム [XOLIM]」はロシア語で丘の意。地名（西岡）に因み付けました。

図案文字は、丘をイメージしています。

▶表紙の写真は、砂澤ビッキ[1931-1989]の彫刻「Images of British Columbia」1983の写真で『砂澤ビッキ作品集』1989年刊 用美社、から涼子夫人および発行者のご好意により転載させていただきました。▶この作品は、氏が1983年北海道美術研修生としてカナダに派遣され、British Columbiaに3か月滞在したときに、カナダ杉[red cedar]を用いて制作されたものです。

▲ボードリアン図書館入口に立っている銅像は手摺者の一人第三代ペンブルック伯爵ウィリアム・ハーバート。一六一七―三〇年にオックスフォード大学の名誉総長だった。



▲ハンフリー公図書室の閲覧コーナー